

沖冠
嶺著

十八史略譯解

八下

特31

732

館籍世會育教本日大

室	第		
一	五		二
二	四	五	九
冊	號	架	函

共十二冊

延政、建州ニ拠テ、殷帝ト称ス。○南漢
 主、劉珍弟弘熙、珍ヲ弒シ、自立ス。名ヲ
 晟ト更ム。○閩朱文進、其主王曦ヲ弒
 シ、自立ス。殷主延政、兵ヲ遣フ之ヲ討
 ス。閩人、文進ヲ殺シ、能ク殷ニ傳フ。殷
 國号ヲ改テ、閩ト曰フ。唐人、攻テ建州
 ヲ拔ク。延政、出テ降ル。閩亡フ。世紀、閩
 梁ノ太祖、乾化三年ヨリ、号ヲ建ツ。是
 唐、福州ヲ攻ム。福州ニ屬ク、後、
 吳越、兵ヲ遣フ之ヲ取ル。○初、晋ノ高
 祖、契丹ニ事テ、甚謹ム。少主位ニ即
 二

同國使初ノ深
 ノ太祖馬殷カ
 奏スル所ニ從
 復、汴、荆、襄、廣、郢
 復州ニ於テ、回
 國務ヲ置キ、茶
 ヲ河南ノ北ニ
 運テ、以テ、繒、纈
 戰馬ニ易フ。後
 契丹、喬榮ヲ以
 テ、回國使ト為
 シ、郎、大梁ニ為
 置ク。是ニ及テ
 囚ラ、ハ綱鑑ノ
 注ニ、回ハ、綱
 ナリ。回ハ、綱
 リ。説、荀子ニ
 ヌ

至テ、影延、廣、議ヲ主トシ、哀ヲ告クル
 二、復ク、臣ト称セシ、契丹、大ニ怒ル。延
 廣、又其回國使ヲ囚ス。已テニノ歸ラ
 シム。大詔ノ曰ク、歸テ而カ主ニ諂フ、
 先帝、北朝ノ為ニ立テラル、故ニ臣
 ト称メ、表ヲ奉ル。今上ハ乃チ中國ノ
 立ル所、隣ノ為メ、孫ト称メ、足ラシ、
 翁怒ラハ則チ來リ戦ヘ、孫ニ十萬ノ
 磨劍ヲ横クヘテ、相待ツアリト、桑維
 翰、屢遜辭ノ以テ契丹ニ謝セント請
 ス。毎ニ延廣カ為メニ沮マル、是ニ於

五代晋 二

免レサルナリ、
都城ハ、大梁ヲ
謂フナリ

誅ヲ以テス、人々生ヲ聊セス、括シ至
ル、初ヨリ頒給スルナシ、皆輦ノ帰ン
ト欲ス、中外怨憤ノ、皆之ヲ逐ヲ思ス、
所_言在盗起ル、契丹ノ主曰久、我レ中國
ノ治ノ難キ此ノ如キヲ知ラスト、汴
ニ居ル、三月ニ還ル、晋ノ劉知遠、先
ツテ一月ニ位ニ晉陽ニ即ク
○漢國ヲ知遠、大原ニ居テ、事ヲ起シ、中
宗ノ弟八子淮阳王昞ノ後ナルヲ
以テ、國、目テ漢ト号シ、汴ニ都ス
高祖皇帝_姓ハ劉氏、初ノ名ハ知遠、沙陀
ノ人ナリ、晋祖敬瑭ニ兵間ニ事テ功

將ヲ遣シ、張敬
達_管ニ入ル
管ニ還ル

最モ多シ、晋祖、河東ニ在シニ、唐ノ潞
王、之ヲ移ソ鄆ヲ鎮セシム、知遠力曰
久、明公久ク兵ニ將トメ、士卒ノ心ヲ
得タリ、今形勝ノ地ニ拠テ、士馬精強
ナリ、若シ兵ヲ称ケ、檄ヲ傳ヘハ帝業
成ル可シ、奈何ソ一紙ノ制書ヲ以テ、
自ラ虎口ニ投セント、遂ニ命ヲ拒ム、
唐、將ヲ遣メ之ヲ攻ム、克タス、晋祖、兵
ヲ舉テ唐ヲ滅シ、洛陽ニ入ル、知遠、時
ニ侍衛馬軍都指揮使ト為ル、漢ノ兵
ヲ分テ、管ニ入り、契丹ノ兵ヲ寺ニ館

声ヲ禁セヨ口
ク声ヲ出サナ
ラシムルヲ謂
フナリ、乾祐高
祖ノ年号、隱帝
仍テ之ヲ用ユ

漢主ノ左右ノ嬖倖、寢事ヲ用テ親戚
政ヲ干ス、邠等毎ニ之ヲ裁抑ス、漢主、
益壯ナリ、大臣ノ為メニ制セラレ、
ヲ厭フ、揚邠嘗テ事ヲ前ニ議ス、曰ク、
陛下、但色ヲ禁セヨ、臣等カ在レアリ
ト、漢主、積テ平ナル能ハス、左右自テ
之ヲ譖ス、乾祐三年、邠弘肇、章ヲ殺ス、
密詔ヲ遣メ郭威ヲ勸ニ殺サント欲
ス、將佐、威ヲ勸テ入朝メ、自ラ訴シム、
威、大軍ヲ引テ至ル、漢主、兵ヲ遣メ之
ヲ拒ク、或ハ降り或ハ戦ハスノ還ル

〔漢〕漢祖ノ弟、崇
ノ子ナリ
〔將士〕大ニ謀
ヲ忽テ大ニ謀
テ曰ク、威ヲ立
ト、天子ト作シ
ト、輒テ黃旗ヲ
裂テ、黃袍ヲ為
シ、以テ威ヲ為
ニ被ラシム

漢主、乱兵ノ為メニ弒セラル、在位ニ
乾祐ト威太后ニ白メ、武寧ノ節度使
〔武寧〕徐州、為メ武未夕至ラ
斌ヲ迎フ、〔武寧〕徐州、為メ武未夕至ラ
ス、契丹主入寇スト聞テ、威ヲ遣メ兵
ニ將トメ、之ヲ撃タシム、威、澶州ニ至
ル、將士大ニ謀ク、黃旗ヲ裂テ、以テ威
カ、解ニ被ラシメ、共ニ之ヲ扶抱メ、万
歳ト呼ス、地ニ震ス、威ヲ擁メ、南行ス、
遂ニ漢ニ代ル、漢、二世、四年ニメ亡フ
○周 郭威、已テ天子ト為リ、自ラ以
ニ國ヲ建テ、周ト
号シ、亦ニ都ス

ノ家ニ帯テ父
ノ家ニ帯テ父
ノ家ニ帯テ父
ノ家ニ帯テ父
ノ家ニ帯テ父
ノ家ニ帯テ父
ノ家ニ帯テ父
ノ家ニ帯テ父
ノ家ニ帯テ父
ノ家ニ帯テ父

孔目官六曹
孔目官六曹
孔目官六曹
孔目官六曹
孔目官六曹
孔目官六曹
孔目官六曹
孔目官六曹
孔目官六曹
孔目官六曹

太祖皇帝姓ハ郭氏名ハ威、太原ノ人ナ
リ、唐ノ莊宗、宮人崇氏アリ、其家ニ帰
テ、姪ヲ擇フ、一日、門ニ窺フ、疾走ノ過
ル者アルヲ見ル、崇氏大ニ驚テ、何人
ソト問フ、告ル者曰ク、從馬軍使郭雀
兒ナリト、崇氏之ニ嫁セシト欲ス、父
母肯セスメ曰ク、汝ハ帝ノ左右ノ人
ナリ、當ニ節度使ニ嫁スヘシ、奈何ソ
此人ニ嫁セシト、崇氏堅ク他人ニ嫁
セス、竟ニ威ニ歸ク、漢祖、河東ヲ鎮ス、
威、孔目官ト為ル、契丹、汴ニ在リ、威、漢

魏并ノ後世次
魏并ノ後世次
魏并ノ後世次
魏并ノ後世次
魏并ノ後世次
魏并ノ後世次
魏并ノ後世次
魏并ノ後世次
魏并ノ後世次
魏并ノ後世次

祖ヲ勸テ、兵ヲ舉シテ、遂ニ帝業ヲ為
ス、漢ノ隱帝ノ時、威、專ラ征伐ヲ主ト
ル、隱帝、之ヲ殺サレト欲ス、克ハス、威、
兵ヲ擣メ、汴ニ入ル、已テニ出テ、
契丹ヲ禦ク、軍士、擁メ、汴ニ還ル、時ニ
已テニ贊フ、徐州ニ迎フ、乃チ漢ノ太
后ノ令ヲ以テ、贊ヲ廢メ、湘陰公ト為
ス、威ヲ監國ト為ス、尋テ位ニ即ク、自
ラ周ノ魏州ノ後ナリト為ス、國、周ト
号ス、贊ハ崇ノ子ナリ、崇、初ノ隱帝ノ
害ニ遇ト聞テ、兵ヲ起メ、南ニ向ハシ

ト欲ス、迎テ贊ヲ立ルト聞ニ及テ、則チ曰ク、吾兒、帝クテハ、吾復ク何ヲカ求メント、贊、廢セラレテ死ス、崇、乃チ帝ヲ晉陽ニ移ス、有ツ所ハ、并汾、忻、代、嵐、憲、隆、蔚、沁、遼、麟、石ノ十二州ノ地ナリ〔汾〕即チ河西郡〔嵐〕即チ樓煩、已下皆
〔降〕樓煩ノ監牧、唐ノ昭宗ノ時ニ置ク
麟州ハ本漢ノ五原、西河ノ二郡實ニ
地、明ニハ延安府ニ其臣ニ謂テ曰ク、
屬ス〔石〕山西ニ屬ス
朕高祖ノ業一朝、地ニ墜ルヲ以テ、今日ノ位号已ヲ得スノ之ヲ稱ス、願フ

〔述〕軌ノ子
〔述〕律ノ子

ニ我ハ是レ何ノ天子ナリ、汝等ハ是レ何ノ節度使ノヤト、是ヲ北漢ト為ス、子承鈞ヲ遣フ、周ヲ伐ツ、克クス、使ヲ遣フ、師ヲ契丹ニ乞フ、契丹、北漢主ニ策命ス、名ヲ旻ト更ム○契丹ノ述軌、允欲ヲ弑シ、自立ス、述律討メ、述軌ヲ殺メ、之ニ代ル
○楚、希廣、希萼ヨリ以テ來テ、相攻撃ノ寧歲ナシ、其下、又希萼ヲ廢シ、而シテ希崇ヲ立ツ、南唐邊鎬ヲ遣フ、楚ヲ擊シム、希崇降ス、南唐、馬氏ノ族ヲ金陵ニ遷ス、楚、セテ

右楚ノ馬殷、梁ノ太

トシ、朕カ年少フノ新立スルヲ輕ン
 ス、此必ス自ラ来ラン、朕、往カスハ
 アル可ラス、吾カ兵カノ強ヲ以テ、崇
 ラ破ラン、山ノ卵ヲ履カ如キノ
 ト、馮道ガノ諍フ、惟王溥、勸ノ行カシ
 ム、北漢主、高平ニ軍ス、高平郡山西二
 州ノ前鋒之ヲ擊ツ、北漢ノ兵、卻ク主、
 其ノ遁去サレシヲ慮テ、諸軍ヲ趣メ
 亟ニ進ム、後軍、未夕至ラス、衆心危懼
 ス、而ノ主ノ志氣益銳シ、合戦未ク幾
 ハクナラス、周ノ右軍ノ將、樊愛能、何

徽、先ツ遁ル、右軍潰ユ、歩軍千餘甲ヲ
 解テ降ス、主、軍勢ノ危ヲ見テ、自ラ親
 兵ヲ引テ、矢石ヲ犯メ、替戦ス、宿衛ノ
 將趙匡胤カ曰ク、主危シ此ノ如シ、吾
 カ屬何ノ死ヲ致サ、ルヲ得ント、又
 禁兵ノ將張永徳ニ謂テ曰ク、賊氣驕
 レリ、破ル可キナリ、公、兵ヲ引テ高ニ
 乘シ、西ニ出テ左翼ト為レ、我右翼ト
 為テ、以テ之ヲ撃シ、國家ノ安危此ノ
 一舉ニ在リト、永徳之ニ從フ、各二千
 人ニ將トシテ進戦ス、匡胤、身士卒ニ先

〔姑息〕礼記ノ注
二、姑ハ且ナリ、
息ハ休ナリ、
邴代醉篇ニ曰
久尸子云フ、紂
黎老ノ言ヲ棄
天而ノ姑息ノ
語ヲ用ニ、注ニ
姑ハ、婦女ナリ
息ハ、小兒ナリ

タツ、馳テ其鋒ヲ犯ス、士卒死戦ス、一
百ニ當ラサルナシ、北漢ノ兵大ニ敗
レ、楊褒、取テ救ハス、北漢王、晝夜シ北
ニ走ル、僅ニ晋陽ニ入ルヲ得タリ、周
主、樊愛能、何徽、及ヒ呀部ノ軍使以上
七十餘人ヲ収テ、之ヲ責テ曰ク、汝カ
輩戰フ能ハサルニ非ス、正ニ朕ヲ以
テ奇貨ト為テ、劉崇ニ賣与セント欲
スルノミト、悉ク之ヲ斬ル、是ヨリ驕
將情卒、始テ懼ル所ヲ知テ、姑息ノ政
ヲ行ハス、張永、德盛ニ趙匡胤カ智勇

〔都虞侯〕殿前
諸班直及ヒ歩
騎諸ノ指揮ノ
名籍及ヒ訓諫
ノ政ヲ掌ルナ
リ、元者最モ精
キ者

ヲ称ス、權ニ殿前都虞侯タリ、周主、侍
臣ニ謂テ曰ク、兵ハ精ヲ務テ養フ務
ノス、農夫百モ未タ戦士一ヲ養フ能
ハス、奈何ノ民ノ膏血ヲ浚メ、此ノ無
用ノ物ヲ養ハンヤト、乃チ命ノ大ニ
諸軍ヲ簡ハシム、又諸道ニ詔メ天下
ノ壯士ヲ募リ、咸ク關ニ詣ラシム、匡
胤ニ命メ其尤ナル者ヲ選ハシメ、殿
前諸班ト為ス、其騎歩諸軍各將帥ニ
命メ之ヲ選ハシム、是ニ由テ士卒精
強ニメ、向テ呀口克捷ス○周、北漢ヲ

ヲ留テ壽州ヲ圍ム、唐兵、江北諸州ヲ復ス、周ノ守將、皆棄去ル、兵ヲ并セテ壽州ヲ攻ム、周主、復夕自ラ將トシテ壽州ヲ攻ム、唐入城ヲ以テ降ス、周主、大梁ニ還ル、已テニメ復夕自ラ將トシテ壽州ヲ攻ム、〔濠泗〕ニ州、皆淮西ニ屬ス皆降ル、進テ楚州ヲ攻ム、〔楚州〕淮西ニ屬ス兵ヲ遣テ揚泰ヲ取ル、周主、楚州ニ克テ、還テ揚州ニ至ル、唐主、使ヲ遣テ盡ク江北ノ地ヲ獻ス、周主、乃チ還ル、唐主、名ヲ影トシテ、帝号ヲ去リ、周ノ正朔ヲ奉ス。

朗州ノ王、逵、潘州、嗣、カ為メニ殺サル、〔潘州〕周行逢ヲ迎テ、朗州ニ入ラシム、行逢、潭州ヲ供セテ之ヲ有ツ。南漢主、劉晟、殂ス、子、銀立ツ。周主、自ラ將トシテ、契丹ヲ伐ツ、瀛、莫、易、ノ州ヲ取ル、京ヲ離ル、四十二日ニシテ、閩南ヲ悉ク平ク、〔閩南〕三、閩、大議ノ、幽州ニ趨ラントス、不豫ニ會テ止ム、瓦橋關ヲ以テ、雄州ト為ス、〔雄州〕北平、益津、關ヲ霸州ト為ス、〔霸州〕北平、成ヲ置テ還ル、往還六十日。趙匡胤、是ヨリ先キ殿

〔都點檢〕都指揮使ノ上ニ位ス、入レハ則チ乘輿ニ登リ、侍衛ス、出度タリ、鎮守ノ節ヲ發ス、云々、隱伏ヲ挑摘ス

前ノ都指揮使ト為ル、從テ淮南ヲ攻ム、又從テ契丹ヲ征ス、是ニ至テ、殿前ノ都點檢ト為ル。○周主、在位六年ニノ殂ス、改元スル者一ツ、曰ク顯德、周主、藩ニ在テ輜糧ス、位ニ即クニ及テ、首トノ高平ノ寇ヲ破ル、人始テ其英武ニ服ス、号令嚴明ナリ、人敢テ犯スナレ、城ヲ攻メ、敵ニ對シ、矢石左右ニ落レ、斥略容ヲ動カサス、機ニ應シ、策ヲ決ス、人ノ意表ニ出ツ、又政事ヲ勤ム、姦ヲ發キ、伏ヲ摘ム、聰察神ノ如シ、

間暇ニハ則チ儒者ヲ召テ、史ヲ讀マシメ、大義ヲ商確ス、性、絲竹珍玩ノ物ヲ好マス、常ニ言フ、朕、必ス喜ニ目テ人ヲ賞シ、怒ニ目テ人ヲ刑セス、文武參ヘ用テ、各其能ヲ盡サシムト、人其明ニ畏レ、而ノ其惠ニ懷ク、故ニ能ク敵ヲ破リ、地ヲ廣メ、向フ所口前ハナシ、登遐ノ日、遠近哀慕ス、子梁王立ツ、是ヲ恭帝ト為ス

〔恭帝〕名ハ宗訓、七歳ニシテ即位ニ即ク。○趙匡胤ヲ以テ歸德節度使ト為ス、明年

〔鎮定言ス云々〕
鎮定ハ皆州ノ
名鎮定ノ二州
奏ノ言フ契丹
入テ寇スト

〔廣漢ノ後〕
未ク詳ナラセ
テ世次

ノ春、鎮定言ス、契丹入寇スト、匡胤ヲ
ノ兵ニ將トシ、之ヲ禦カシム、陳橋驛
ニ至ル〔陳橋驛〕亦城軍士擁シ還テ、
立ス、周主在位半年、仍テ稱ス、顯德、遂ニ宋
ニ禪ル、周、太祖ヨリ是ニ至ル、三世、實
ニ二姓十年ニシテ
○宋ニ趙匡胤、領スル所ノ歸德軍、宋州
ノ宗、号ヲ定メ、宋トテ、曰フ、汴ニ都ス、太
宗、天下ヲ定メ、今テ二十五路ト為ス、仁宗
十ニ至テ、又テ今テ二五路ト為ス、都ス、太
太祖皇帝〔姓ハ趙氏、名ハ匡胤、其先ハ涿
人ナリ、相傳フ漢ノ京兆ノ尹廣漢カ

〔父弘殷〕
紀ノ注云々、
四世ノ祖、
ノ世、都ノ令、
ヲ生テ、唐ノ御、
中丞、挺ノ刺、
敬、弘殷ヲ生、
周、弘殷ヲ生、
岳州ノ防禦使、
杜氏ノ匡胤、
陽ノ馬官ニ

後タリ、父弘殷、洛陽ノ禁衛ノ將校ト
為リ、匡胤ヲ甲馬營ニ生ム〔甲馬營〕甲
ス、一統志ニ、夾馬營ハ河南府ノ城外
ニ在リ、本トシテ唐ノ夾馬營ノ太祖
始テ生ル赤光、室ニ滿シ、營中異香
ル、一月、人ノ香、孩兒ノ營ト謂フ、少
ノ辛文悦ニ從テ學フ、文悦嘗テ夢ム、
駕ヲ邀フ、見ニ及テ、乃チ是レ匡胤ナ
リ、甚タ之ヲ異トス、周ノ世宗ノ時、軍
政ヲ掌トル、凡ソ六年、士卒其恩威ニ
服ス、數征伐ニ從テ大功ヲ立シ、世宗
一日、文書篋中ニ於テ、一ノ木書ヲ得

文
包
頁
一
八
史
略
註
解
卷
八
下
宋
太
祖
其

誓フ誓約ノ曰
久太后主上ハ
我カ北面ノ之
ニ事ル者驚犯
スルヲ得ス公
卿ハ皆ナ我カ
比肩、侵陵スル
ヲ得ス朝廷ノ
府庫、士族ノ家
侵掠スルヲ得
ス、命ヲ用ハ重
賞アラシ、違ハ
ハ即チ孥戮セ

ニ國号ヲ宋ト曰フ、即位ノ初ノ陰ニ
群情ヲ察セント欲メ、頗ル微行ヲ為
ス、或人輕シク出ル母レト諫ム、上ノ
曰ク、帝王ノ興ル、自ラ天命アリ、周ノ
世宗、諸將ノ方面大耳ナル者ヲ見レ
ハ皆之ヲ殺ス、我終日側ニ侍ス、害ス
ル能ハサルナリト、微行愈教ス、曰ク、
天命アル者、自ラ之ヲ為ルニ任ス、亦
汝ヲ禁セサルナリト、中外警服ス○
昭儀節度使李筠、故ノ周ノ宿將ナリ、
澤州ニ反ス、上、石守信ニ命ノ之ヲ討

〔留從効〕苗ハ姓、
從効ハ名〔藩〕
臣ト称ス

セシム、尋テ親征ス筠、自ラ焚死ス、澤
潞平ク○淮南ノ節度使李重進ハ、周
祖ノ甥ナリ、亦反ス、上、石守信ニ命ノ
之ヲ討ス、尋テ親征ス、重進、自ラ焚死
ス、弟寶勗、之ニ代ル○南唐ノ泉州ノ
留從効、藩ト称ス〔泉州〕福建○建隆ニ
年、南唐主李景都ヲ南昌ニ遷ス〔南昌〕
西ニ屬ス、其子從嘉ヲ以テ建康ヲ守
即チ洪州、景殂ス、從嘉立ツ、名ヲ煜ト更
ラシム、景殂ス、從嘉立ツ、名ヲ煜ト更
ム○上、既ニ筠ト重進トヲ誅シ、樞密
直學士趙普ヲ召シ、問テ曰ク、吾天下

節鎮節度藩鎮
統御ノ才ニ非
ス其ノ麾下ヲ
統御スルヲ謂
フナリ、石守信
カヲ傳ニ、昔教
以テ言ヲ為ス、
太祖ノ曰ク、彼
等必ス吾ニ叛
カス、卿何ソ憂
ノ深キヤト、普
曰ク、臣亦其反
ヲ憂ズ、但數人
ハ皆統御ノ才
ニ非ス、恐クハ
其下ヲ制伏ス
ル能ハス、万カ
一軍伍ノ間、黃
袍ヲ以テ身ニ
加ル者アラハ
時ニ臨テラハ
自由ナレテ豈
得

ノ兵ヲ息へ、國家長久ノ計ヲ為ント
欲ス、其道何如ント、普言久、唐ノ季ヨ
リ以來、帝王數易ルハ、節鎮太夕重ク
君弱ク臣強キニ由ル、今マ稍其
權ヲ奪フニ若クナシ、其錢穀ヲ制シ、
其精兵ヲ収ハ、則テ天下自ラ安カラ
ン、又言ク、殿前ノ帥、石守信等、皆統御
ノ才ニ非ス、宜ク他ノ職ヲ授クヘシ
ト、上悟ル、守信等ヲ召ス、宴酬ナルト
キ、左右ヲ屏テ謂テ曰ク、我爾力曹ノ
力ニ非ンハ、此ニ至ラス、然氏終夕未

ト
〔麾下〕大將指麾ヲ
建テ以テ
稱ス故ニ麾下ト

夕嘗テ執ヲ安セサルナリ、此位ニ居
ル者、誰カ之ヲ為スヲ欲セサランヤ
ト、守信等頓首ノ曰ク、陛下何為ソ此
言ヲ出ス、天命已テニ定マレ、誰カ敢
テ異心アラシヤト、上ノ曰ク、汝カ曹
異心ナシト雖モ、麾下ノ人富貴ヲ欲
スルヲ如何ン、一旦黃袍ヲ以テ汝カ
身ニ加ハハ、為テ欲セスト雖モ其得
ヘケンヤト、皆頓首ノ泣テ曰ク、臣等
愚ニソ此ニ及ハス、惟陛下哀矜メ生
ク可キノ途ヲ指示セヨ、上ノ曰ク、入

新編 皇朝 十八史略 卷八 下 宋 太祖 九

自駒云々其疾
速言フナリ
白駒ハ、日影
喻フナリ、際
壁ノ孔際ナリ
死ヲ生ス云々
言ハ、死者ヲ
復タ生キ、骨
ニ肉カ、如シ
ムルカ、如シ

生ハ、白駒ノ際ヲ過ルカ如シ、富貴ヲ
好ムヲ為ル所ノ者ハ、多ク金錢ヲ積
テ、厚ク自ラ娛樂シ、子孫ヲノ貧乏ナ
ル無ラシメント欲スルニ過キサル
ノ、汝カ曹、何ソ兵權ヲ釋去テ出テ
大藩ヲ守リ、便好ノ田宅ヲ擇テ之ヲ
市ヒ、子孫ノ計ヲ為サ、ル、多ク歌童
舞女ヲ置キ、日カ酒ヲ飲テ、相安セン
下、臣等ヲ念ス、此ニ至ル、謂エル死ヲ
生シテ、骨ニ肉ツクルナリト、明日皆

罷ト請乙典
ノ書者、記ノ掌ト
軍ヲ掌ト、官禁
北ノ衙、夏、定、節
度使、西、夏、定、節
節度、ト、号、ス、西
平王、後、周、ノ、封
不、即、所、ノ、周、封
興、即、所、ノ、周、封
祖、即、所、ノ、周、封
殷、即、所、ノ、周、封

疾ト称ノ、罷ト請フ○趙普ハ、薊人
ナリ、上ニ滁州ニ遇フ、用テ節度ノ掌
書記ト為ス、上、即位ノ後、專ラ与ニ謀
議シ、之ニ倚信ス○文真、馬ヲ貢ス、真
國、肅、慎ノ遺種、古○回鶻于闐來貢ス
○建隆三年、泉州ノ留從効卒ス、衙將
陳洪進、張漢思ヲ推テ、軍務ヲ領セシ
ム○定難ノ節度使、周ノ西平王李彝
興、馬ヲ貢ス○武平ノ武平、武平武
安ノ鎮帥周行逢卒ス、武安ノ武安
子保權軍府ヲ領ス、衡州ノ太守張文

ニ及テ、詔ノ之
ニ從テ、坐論ノ之
禮、遂ニ廢シ、秦
御ノ多キ此ニ奏
始マレ

鑑鏡ナリ

普ラ以テ同平章事トス○主全斌ニ
命ノ、蜀ヲ伐クシ、乾德三年、蜀ノ相
李昊、蜀主孟昶ヲ勸テ、出テ降ラシム、
蜀亡フ、右後蜀ノ命ヲ知唐ノ明宗長
ヨリ、是ニ至ルニ世、凡前蜀王氏ノ亡
ソ、三十年ニ至ルニ世、凡前蜀王氏ノ亡
フ、ルヤ、降表、亦昊力草スル所、蜀人
夜、其門ニ書ク、世降表ヲ修スル李家
ト曰フ○初ノ宰相ニ命テ、前代ニ未
タ有ラサル年号ヲ擇フ、以テ今ノ元
ニ改ム、是ニ及テ蜀ノ鑑ヲ得タリ、乃
チ乾德四年ニ鑄ノ字アリ、之ヲ怪シ

奎ニ聚ル、徐州、直、星
魯ノ、域ニ、直、星
羊ノ、占、真、星、曆
推歩、日月ノ、天
言ハ、轉運スル、猶
二、人、行、歩、ス、ル、星
カ、如、シ、故、ニ、星
曆、ヲ、推、算、ト、謂、ル
之、ヲ、推、歩、ト、謂、ル
フ、名、ニ、拾、遺、録、官
ノ、名、ニ、拾、遺、録、官
微、之、ト、多、遼、ト

召問ス、學士竇儀カ曰ク、昔、偽蜀王衍
ニ此ノ号アリ、上歎ノ曰ク、宰相須ク
書ヲ讀ム、人ヲ用ユヘシト○五年、五
星、奎ニ聚ル、是ヨリ先キ、周ノ顯徳中
ニ、竇儀、揚徽之、盧多遜、同ク諫官ト為
ル、儀、推歩ヲ善ス、嘗テ曰ク、丁卯ノ歲
五星、奎ニ聚マラン、此ヨリ天下太平
ナラン、ニ拾遺ハ之ヲ見シ、儀ハ預ラ
サルナリト、是ニ至テ果メ然リ○夏
州ノ李彝興卒ス、子光叡、軍務ヲ領ス
○開寶元年、北漢主劉鈞歿ス、養子繼

養子繼恩立世祖
初ノ漢ノ世祖
ノ女、薛氏ニ適
キ、繼恩ヲ生ム
俱ニ幼孤ナリ
世祖鈞カ子ナリ
キヲ以テ、便チ
之ヲ養ハシム
皆ナリ、劉姓ヲ冒
ス、大理寺ヲ置
ニ、九寺アリ、此
共一ナリ、折獄
詳刑ヲ掌トル
〔附會〕依附ノ會
合スルナリ〔會
昌〕屬〔在〕〔會〕
斧ナリ

恩立、郭無為之ヲ弒ス、而ノ其同母
弟繼元ヲ立ツ、皆異姓ノ子ナリ○雷
德驥大理寺ヲ判ス、官屬堂吏ト附會
シ、擅ニ刑名ヲ増減ス、德驥憤死ス、直
ニ講武殿ニ詣テ之ヲ奏ス、并ニ言フ、
趙普強テ人ノ第移ラ市テ、財賄ヲ聚
歛スト、上怒テ叱シ、曰ク、曷錯タモ尚
取アリ、汝趙普ハ吾ノ社稷ノ臣ナレ
ラ聞カスヤト、柱斧ヲ引テ其二齒ヲ
擊折シ、命ノ曳出ル、之ヲ黜ク○二年
曹彬等ニ命ル、北漢ヲ伐タシム、尋テ

太祖雪夜趙普ヲ問フ圖



親征ス、太原ヲ攻ム、城久ク下ラス、兵
ヲ百草池ニ頓ス、暑雨ニ中ツテ、疾疫
ス、詔ノ師ヲ班ス○上即位ヨル、或ハ
微行ノ功臣ノ家ニ幸スルヲ測ル可
ラス、趙普朝ヨリ退クコトニ、敢テ衣
冠ヲ脱セス、一夕大雪フル、普意ヲ
ク上復タ出テスト、之ヲ久ノ門ヲ叩
ク、色ヲ聞ク、異ナル甚シ、亟ニ出レハ、
則チ上、雪中ニ立ツ、普惶恐ノ迎拜ス、
普カ堂ニ即キ、首褥ヲ設テ、地坐ス、炭
ヲ熾ニシ、肉ヲ燒ク、普カ妻酒ヲ行ス、

成算籌画ナリ

搜ヲ以テ之ヲ呼フ、昔、從容トシテ問テ
 曰ク、夜久ク、寒甚シ、陛下何ヲ以テカ
 出ルト、上ノ曰ク、吾睡著ク能ハス、一
 榻ノ外、皆他人ノ家ナリ、故ニ来テ卿
 ヲ見ルト、昔カ曰ク、陛下天下ヲ少ト
 スルヤ、南征北伐、此レ其時ナリ、願ク
 ハ成算ノ向フ所ヲ聞ント、上ノ曰ク、
 吾太原ヲ取ント欲スト、太原此漢ノ
 昔、默然タリ、良久ノ曰ク、臣カ知ル所
 ニ非ルナリ、大原ハ西北ノ二邊ニ當
 レリ、一舉ノ下ラシノハ、邊ノ患ハ、我

何ノ姑ク之ヲ
 言ハ、姑ク之ヲ
 當存ノ以テ西
 北ノ邊ノ患ニ
 當テ、諸國ノ平
 クヲ俟テ、始テ
 國ル可キナリ
 彈丸黒子其地
 ノ小ニ喻フ

〔謀者〕及問又、謀
 ト曰フ

獨之ニ當ラン、何ノ姑ク留テ以テ諸
 國ヲ削平スルヲ俟タサル、彼ノ彈丸
 黒子ノ地、將タ何ソ逃ル、所アラシ
 ト、上笑テ曰ク、吾意正ニ爾リ、姑ク卿
 ヲ試ルノミト、是ニ於テ、師ヲ荆湖ニ
 用ユ荆湖北繼テ西川ヲ取ル○嘗テ
 北漢ノ謀者ニ目テ、北漢ノ主鈞ニ語
 テ曰ク、君カ家、周氏ト世仇ス宜ナリ
 屈セス、今我ト爾ト間アル所ナシ、何
 ノ為ニカ、此ノ一方ノ人ヲ困ムト、鈞
 謀者ヲ遣シ、復命ノ曰ク、河東ノ土地、

兵甲ハ、中國ノ什カ一ニ當ルニ足ラ
 ス、區々トソ此ヲ守ルハ、蓋シ漢氏ノ
 血食セサルヲ懼テナリト、上、其言ヲ
 哀テ、鈞ノ世ヲ終ルマテ、大軍ヲ以テ
 北伐セス、繼元カ立ツニ及テ、始テ兵
 ヲ用ユ○是歲契丹其主述律ヲ弑ス、
 穆宗ト号ス、其伯父兀欲カ子明記ヲ
 迎立ス、名ヲ賢ト更ム○三年潘美ニ
 命メ南漢ヲ伐シム、四年、廣州ニ克ツ、
 劉銀降ス、南漢亡フ右南漢劉隱、梁ノ
 太祖、開平元年ニ
 僭号シヨリ、是ニ至ル、五世、○六年、交
 凡テ五十三年ニ至ル、五世、○六年、交

趾丁璉、表ヲ上テ内附ヲ求ム、詔ノ静
 海節度使、安南都護ト為ス〔安南〕國、交
 アリ、唐ノ懿宗、静海節度ヲ安南ニ置
 ク、此ニ至テ璉ヲ以テ静海節度使ト置
 為ス、而シテ安南ノ趙普、相ヲ罷テ、河陽三
 南ヲ撫フ○趙普、相ヲ罷テ、河陽三
 城節度ヲ領ス〔河陽〕孟州、河陽普、沈毅
 影断ニメ、天下ヲ以テ已レカ任ト為
 ス、嘗テ某人ヲ除シテ、某ノ官ト為シ
 ト欲ス上、用ヒス、明日之ヲ奏ス、上怒
 テ其奏ヲ裂ク、普、徐ニ拾テ以テ歸ル
 補綴ノ以テ進ム、上悟ル、乃チ之ヲ可
 ス、又功ヲ立テ當ニ官ヲ遷スヘキ者

班ヲ押セス、管拘
 ナリ、班ハ、位次
 ナリ、朱子曰、久
 國初、主上、每
 正殿、御セ、日
 然、凡朝、官ヨ
 以上、凡朝、官ヨ
 在、ル者、皆班
 排、ス、宰相事
 フ、奏シ、罷テ、印
 キ、來テ、班ヲ、押
 ス、再拜、ノ出、ツ、
 日々、此ノ如シ、
 時、歸、班、官、之、
 フ、苦ミ、其、後、遂
 ニ、廢、ス、印、ヲ、知
 セ、ス、知、ハ、主、ナ

アリ、上、素ヨリ其人ヲ嫌テ、与ヘス、昔
 カテ下サント請フ、曰ク、朕固ク与ヘ
 ス、奈何、ント、昔カ曰ク、刑賞ハ天下ノ
 刑賞、安ソ私ノ喜怒ヲ以テ之ヲ專ニ
 スルヲ得ント、上、聽カスノ起ツ、昔、之
 ニ隨フ、上、官ニ入ル、昔、宮門ニ立テ去
 ラス、上、卒ニ之ヲ可ス、昔、常ニ大癡ヲ
 間、後ニ設テ、表疏ノ意ニ可トセサル
 者ヲ其中ニ投メ、之ヲ焚ク、其多ク謗
 フ得ル、此ヲ以テナリ、雷德驥ノ子、又
 之ヲ訐久、上、始テ普ヲ疑フ、是ヨリ先

リ、唐、宋、宰相、皆
 印アリ、其文ニ
 中書門下ノ印
 ト曰フ、故ニ日
 フ、今、法、アリ、知
 ル、罷、法、普、政、
 ニ罷、ル、ヲ、求、テ、遂
 罷、ル、ヲ、求、テ、遂
 二出、テ、河、陽、三
 城、ノ、節、度、使、ト
 為、ル

キ、參知政事ヲ置テ、以テ普ニ副スト
 雖モ、制ヲ宣セス、班ヲ押セス、印ヲ知
 セス、政事堂ニ升セス、是ニ至テ、始テ
 ニリノ參政ニ詔メ、政事堂ニ升テ、同
 ク政ヲ議シ、更ニ印ヲ知シ、班ヲ押シ、
 普ト齊セシム、未夕幾ハクナラスノ
 昔、遂ニ罷ム、薛居政、呂餘慶等、其後繼
 テ相ト為ル〇七年、曹彬ニ命メ、江南
 ヲ伐クシム、初、上、屢使ヲ遣シ、江南
 ノ國主李煜ヲ喻メ、入朝セシム、至ラ
 ス、乃チ彬及ヒ潘美等ヲ以テ、之ヲ討

龍頭
 廿八史略譯解卷八
 下宋太祖 二六

セシム、戒ルニ切ニ生民ヲ暴掠スル
 勿レ、務テ威信ヲ廣メ、自ラ順ニ歸セ
 シメテ、須ク急ニ擊ツヘカラサルヲ
 以テス、連刻ヲ取テ彬ニ授テ曰ク、副
 將ヨリ而下命ヲ用ヒサル者ハ、之ヲ
 斬レト、美、以下皆色ヲ失ス、王全斌カ
 蜀ヲ平テ多ク人ヲ殺セシヨリ、上、每
 ニ之ヲ恨ム、彬カ性仁厚ナリ、故ニ專
 ラ任ス、是ヨリ先キ、江南ノ樊若水、進
 シニ舉ラレテ、第セス、上書ノ事ヲ言
 ス、報アラス、乃チ魚ヲ采石江上ニ釣
 ス

〔第セス〕及第セ
 ス



樊若水繩ヲ以テ江ノ廣
 狹ヲ度ル圖

リ繩ヲ以テ江ノ廣狹ヲ度ル、關ニ詰
 テ策ヲ陳ス、上、其言ヲ用ヒ、荆南ニ令
 メ、大艦ヲ造テ、浮梁ト為シ、以テ師ヲ
 濟ス、是ニ至テ之ヲ用ユルニ尺寸ヲ
 差ハス○八年、曹彬、金陵ヲ圍ム急ナ
 リ、李煜、徐鉉ヲメ入貢セシム、兵ヲ緩
 センヲ求ム、鉉言ク、煜小ヲ以テ大ニ
 事ル、子ノ父母ニ事ルカ、如シ、其説教
 百ヲ累スト、上ノ曰ク、尔父子ト謂フ、
 兩家ノ為メニハ可ナランヤト、鉉對
 ル能ハスメ還ル、尋テ復タ至テ奏メ

黃袱凡物絹布
ヲ以テ物ヲ包
ムユヘシノ者
之ヲ祇ト謂ス
黄ハ其色ナリ

シ○九年、吳越王錢俶、來朝ス、辭メ、歸
ル、上、賜フニ、黃袱ヲ以テス、封緘甚タ
固シ、曰ク、途中ニメ、宜ク密ニ觀ルヘ
シト、之ヲ啓クニ及テ、皆群臣俶ヲ留
メント、乞フ章疏ナリ、俶感懼ス○上、
西京ニ如キ、宜祖ノ安陵ニ謁ス〔西京〕
陽ヲ以テ西京ト為ス、汴梁ヲ東京ト
為ス、〔安陵〕太祖ノ父、殷弘、廟、宜祖ト号
ス、安陵ニ○夏四月、郊ス、都民ノ滄
茨ムル者、相謂テ曰ク、我カ輩、少ヨリ
ナル者、經タリ、固ラサリキ、今日復タ太
平ノ天子ノ儀衛ヲ觀ントハト、泣ク下

山河ノ勝ニ、批
ル云々、太祖、汴
京ヲ以テ、四、面
敵ヲ受ル、ノ、地
ト為ス、故ニ、形
勝ノ地ニ、處テ、形
死兵ノ事ナキテ、
者ヲ去シ、ト欲

ル者アリ○上、洛陽ニ都セシト欲ス、
群臣咸ク諫ス、上ノ曰ク、吾且ニ長安
ニ都セシトス、ト、晋王頭ヲ叩テ曰ク、
徳ニ在ル、險ニ在ラズト、上ノ曰ク、吾
將ニ西ニ遷ラン、ト、上、山、河、ノ
勝ニ、批、テ、兵、ヲ、去、シ、ト、欲、ス、
言固ニ善シ、余姑ク之ニ從フ、百年ヲ
出テス、ノ、天下ノ民カ、殫シト、乃チ、大
梁ニ還ル○上崩ス、在位十七年、改元
不レ者三ツ、曰ク、建隆、乾徳、開寶、壽五
十、上、仁孝懿達ニ、大度アリ、陳橋ハ

市肆ハ、舖面ナリ、
市肆ハ、驚擾セザ
ルハ、謂フナリ
便殿正殿ニハ、
坐ス、便殿ニハ、
安ノ殿ナリ、便

藩侯藩鎮ノ諸
侯
天內宮禁

川班殿直蜀
士卒ノ殿直者
ヲ以テ、殿直
班殿直ト曰フ、
班殿直ト曰フ、
其車駕ニ扈從
スルノ勞ヲ以
テ、特命ノ錢ヲ
増給ス、人コト
隋ノ制ニ凡ソ
奏聞制ニ凡ソ
者、鼓ヲ過スル
キ、有司状ヲ録
ノ之ヲ奏ス、陳
乞御馬直ノ例
ヲ接テ、増給
陳ヘ乞フ

變、衆心ニ迫ラズ、京師ニ入ル、
市肆ヲ止メ、嘗テ一日朝ヲ罷メ、
殿ニ坐メ、樂マサル者、久シク、
左右其故ヲ問フ、上ハ曰ク、
天子ト為ル、容易ナリト謂ヤ、
適快ニ乘メ、一事ヲ指揮
ノ誤ル、故ニ樂マサルノミト、
嘗テ近臣ヲ紫雲樓下ニ宴ス、
曰テ論民事ニ及ス、宰相ニ謂テ
曰ク、愚下ノ民、
務メテ苛虐ヲ行フ、朕、
斷之、之ヲ容ス、
開宝ノ初、京城及ヒ大内ヲ
修

ノ、營繕シ畢ル、上、
寢殿ニ坐メ、諸門ヲ
洞開セシム、皆端直軒豁、
壅蔽アルナシ、
目テ左右ニ謂テ曰ク、
此レ我カ心ノ如シ、
少モ邪曲アレハ、
人皆之ヲ見ルト、
蜀ヲ平テ、後、
嘗テ其兵百餘ヲ
擇テ、川班殿直ト為ス、
郊祀ノ畢リ、賞ヲ行フニ、
御馬ノ扈從スルヲ以テ、
特ニ給フ増ス、
川班、登聞鼓ヲ擊テ、
例ヲ援テ、
陳ヘ乞フ、
上、怒テ曰ク、
朕ノ与フル所ハ、
即チ恩澤タリ、
豈ニ邪アラシヤト、
其妄ニ訴ル者、
四十餘人ヲ斬ル

〔配隸〕川班ヲ以テ、諸軍ニ以テ、屬ス〔丙臣〕官者、撫拍ニ通ス。〔通判〕郡政ニ、俸貳スルヲ掌トシ、長吏ト均礼トス。凡ソ兵民ノ賦、錢穀、戸口ノ賦、役獄訟聽斷ノ事、可ト否裁決守ノ事、ト通簽、善施行ス。所部ノ善否、及ヒ職事ノ善修、察スルヲ以テ、ハ刺舉ノ以テ、刺スルヲ得ル。〔刺〕史ノ權此ノ謂ナリ、大守ヲ謂トナリ、刺史ハ本ト漢官ノ名、

餘ハ悉ク諸軍ニ配隸ス、遂ニ其直ヲ察ス、内臣、後唐事ルニ逮フ者アリ、上問フ、莊宗、英武ニシテ天下ヲ定ム、國ヲ享ル久カラサルハ、何ソヤト、其人其故ヲ言フ、上、驛ヲ撫メ、嘆メ曰ク、二十年、河ヲ夾テ戦争シ、天下ヲ取得テ、軍法ヲ用テ約束スル能ハス、誠ニ見戲タリ、朕今士卒ヲ撫養メ、爵賞ヲ吝セス、苟モ吾法ヲ犯サハ、惟劍アルノミト、五代ヨリ以來、藩鎮強盛ナリ、上、漸ヲ以テ之ヲ削ル、諸ノ節鎮ヲ罷テ、專

武帝之ヲ置ク、詔ヲ奉シ、州ヲ察スル者ナリ、後世ニ至テ、遂ニ太守ノ稱トナス、〔葦簾〕蘆葦ヲ、簾ト為ス

ラ儒臣ヲ用ニ、郡國ヲ分理メ、以テ節鎮ノ擢ナルヲ革ム、又諸州ノ通判ヲ置テ、以テ刺史ノ權ヲ分タシム、是ヨリ諸侯勢輕ノ禍難作ラヌ、專ラ民力ヲ愛養スルヲ務メ、貢獻ヲ罷メ、卻テ美餘ヲ進ムルヲ禁ス、常ニ澣濯ノ衣ヲ衣ル、寢殿ハ青布ヲ以テ葦簾ニ縁ス、晩節ニ書ヲ讀ムヲ好ム、嘗テ歎メ曰ク、堯舜ノ世、四凶ノ罪、投竈ニ止ル、何ソ近代法網ノ密ナルヤト、諸國ヲ削平ス、必ス之ヲ招ク、至ラヌ、而ノ後ニ

武成王唐ノ肅宗太公望ヲ追贈ス武成王ト為ス從祀配享降ル白起嘗テ趙ノ將自起嘗万ヲ抗降卒四ヨリ入抗時陳朝ノ節副都死使韓通趙都指ノ京通入趙指ノ作以爲禁中乱ヲ作ル禁中ヨリ衆惶遽ノヲ帥テ軍校王彦昇謀テ之ヲ殺ス追厚通ヲ追贈ノ

兵ヲ用ニ其既ニ降ルニ及テ皆戮ヲ加ヘス礼ノ之ヲ存ス而ノ其世ヲ終ヘシム嘗テ武成王ノ廟ニ幸メ從祀ヲ觀ルニ白起アリ指メ曰ク起已テ降ルヲ殺ス不武ナリト命メ之ヲ去テシム周ノ恭帝鄭王ニ封セラレテ後房州ニ遷ル上辛文悅カ長者ナレヲ以テ房州ノ守ト為サシム恭帝上ニ先テ二年ニ始テ卒ス上哀ヲ發メ朝ヲ輟ル十日還テ葬ル礼ノ如シ上初ノ京ニ入ル時周ノ韓通節ニ死

中書令ト爲ス
節鉞節旄斧鉞
凡ソ節度使ト
爲ル者必ス之
ヲ授ク之ヲ薄
ンス教カ不忠
瓜ノ屬狀執ノ
如シ實食ヲ可
事ノ府宰相政
學士云々言ハ
學士制ヲ革ス
スルニ皆典故
ヲ按ノ草ヲ起
ス猶ヲ舊様ニ
依テ胡蘆ヲ画
クカコトキノ
ミ宋史職官志
ニ翰林學士ハ
制誥詔令撰述
ノ事ヲ掌ト述

ス追贈優厚ナリ王彦昇命ヲ棄テ殺スヲ專ニス身ヲ終ルマテ節鉞ヲ授ケス禪ヲ受レノ際倉卒ナリ未タ恭帝ノ禪ノ制アラス學士陶穀諸ヲ懷中ヨリ出ス上之ヲ薄ンス教久ク翰林ニアリ頗ル怨望ス上曰ク吾聞ク學士ノ草制ハ様ニ依テ胡蘆ヲ畫クノミ何ノ勞カ之レ有ラント卒ニ之ヲ政府ニ登サス内外ノ官時望アル者姓名ヲ籍記ノ以テ不次ノ選用ヲ待ツ職ニ扨フ者久ク任メ迂ラサル

銓選法、銓、銜、ナリ、又、量、ナリ、次、ナリ、度、ナリ、陶、穀、カ、上、ソ、ル、所、ニ、從、フ、初、ノ、京、官、七、品、以、下、猶、フ、餘、ニ、屬、ス、自、後、京、官、以、上、選、ナ、シ、中、書、門、下、特、ニ、除、ノ、而、ノ、使、府、辟、召、ヲ、許、ス、幕、職、悉、ク、銓、授、ニ、由、ル、運、銓、法、乾、德、三、年、坐、法、乾、德、三、年、陶、穀、等、職、詔、ノ、各、幕、職、京、官、中、守、於、堪、ヲ、郡、守、一、人、監、ヲ、シ、官、一、人、除、ス、ル、日、仍、ヲ、書、主、ノ、姓、名、ヲ、書、

多シ、銓選ノ法ヲ定ム、擧主連坐ノ法
ヲ嚴ニス、賊吏ノ法ヲ嚴ニス、極刑ニ
實ク者アリ、五代藩鎮苛征重歛ノ弊
ニ懲テ、商征ヲ寬フス、麴塩酒ノ禁ヲ
寬フス、漢法ニ、私麴令ヲ犯ス者ハ棄
者ハ死ス、私酒ヲ至テ、詔ノ私麴三斗
至ル者ハ、始テ極刑ニ入ル、其餘ハ、罪
峻キヲ以テ、差テ、官又前朝ノ鹽法太
關入シ、貿易至ル者ハ、死ニ至ル、私
煮ルヲ三斤ニ至ル者ハ、死ニ至ル、私
ス、乾德四年、詔ノ奏裁ス、倉吏民租
罪、死ニ至ル者ハ、奏裁ス、倉吏民租
ヲ多ク入ル者ハ、或ハ棄市ス、五

ハ、並ニ罪ニ坐者
ス、極刑ニ死ナ
リ、建隆二年、李
瑤、賊ニ坐、杖
殺セラル、自後
賊吏ニ極刑ヲ
置ク者、ア、刑
征、商賈ノ征、稅
罪ニ抵ル、故、サ
入ル、人ヲ罪ニ
テ、其罪ヲ以テ
之、罪ナリ、大辟
死罪ナリ、詳覆
法、五代藩鎮、殺
ヲ、專ラニシ、諸
州ニ、令、シ、大、辟
案ヲ、奉、シ、大、辟
刑部ニ、委、シ、詳
覆ス、新刑統、實

代多ク武人ヲ以テ收守ト為ス、意ニ
率テ刑ヲ用ニ、上之ニ懲ル、故ニ入
者ハ必ス罪ニ抵ル、大辟詳覆ノ法
ヲ定ム、折杖ノ法ヲ定ム、折杖ノ法
一、百、杖、各々、教、了、リ、杖、刑、五、ツ、日、ク、杖
為、八、十、十、七、ト、為、ス、九、十、ヲ、十、八、ト、杖
下、為、八、十、十、七、ト、為、ス、九、十、ヲ、十、八、ト、杖
薄、長、短、周ノ顯、中ノ制、ノ如シ、一、說
折ハ、猶、代ノ顯、中ノ制、ノ如シ、一、說
以テ、折、多、ノ、意、アル、義、新、刑、統、ヲ、領、ツ、差
役、ノ、法、ヲ、定、ム、版、籍、戸、帖、戸、鈔、ヲ、作、ル、
長、吏、民、田、ヲ、度、テ、實、ナ、ラ、サル、者、ア、レ、
或、ハ、之、ヲ、杖、流、ス、諸、州、早、蝗、ア、レ、

拾遺 頭 十八史纂議解卷八 下 宋 太祖 三十三

父草蒿葉ニ似
テ灸ス可シ

祖、禪ヲ受テ乃チ名ヲ光義ト改メ、開
 封ニ尹レトノ、同平章事タリ、晉王ニ封
 セラレ、建隆二年、昭憲杜太后崩ニ臨
 テ、太祖ニ謂テ曰ク、汝天下ヲ得ルニ
 ヘシノ者ヲ知ルヤト、太祖ノ曰ク、皆
 祖考ト太后トノ餘慶ナリト、太后笑
 テ曰ク、然ラス、正ニ柴氏ノ幼見ヲメ
 天下ニ主タラシムルニ由ルノミ、汝
 万歳ノ後當サニ位ヲ光義ニ傳ヘ、光
 義ハ光美ニ傳ヘ、光美ハ以テ德昭ニ
 傳フヘシ、國ニ長君アルハ、社稷ノ福

趙普書ヲ為ル圖



趙普

太祖

ナリ、柴氏周ノ世宗、光美ハ、延英
 開宝六年、太祖ノ長子、太平興國四年、太
 宗、延英ヲ追封太祖曰ク、謹テ教ヲ受
 ノ、秦王ト為ス、太祖曰ク、趙書記普
 クト、太后、趙普ヲ呼テ曰ク、趙書記普
 嘗テ掌書共ニ吾カ言ヲ記セ違フ可
 記タルナリト、普ニ命ノ榻前ニ於テ、
 ラサルヲ為サシム、普、紙尾ニ署ソ曰ク、
 趙普記スト、之ヲ金匱ニ藏ム、太祖友
 臣普、記スト、晉王、嘗テ疾ニ寝ソ、灼艾
 愛薦ク至ル、晉王、嘗テ疾ニ寝ソ、灼艾
 ス、太祖モ亦自ラ灸ソ以テ其痛ヲ分
 ツ、嘗テ曰ク、晉王龍行兎歩ス、且ツ生

〔齊賢〕洛陽ノ人
 〔布衣〕未タ爵禄
 フ蒙ラサルヲ
 布衣ト曰フ干
 菘并浴ヲ下ス
 民ヲ富ス、封建
 敦孝、賢ヲ舉ク
 太學、籍田、良吏
 フ選フ、姦ヲ懲
 シ、刑ヲ慎ム
 其業ヲ善トス
 就テ、四業旨ニ
 称フ

ル時異アリ、他日必ス太平ノ天子ト
 作ラシ、福徳ハ吾カ能ク及フ所ニ非
 ルナリト、太祖、西京ニアリ、布衣張齊
 賢アリ、十策ヲ獻ス、召シ問テ食ヲ賜
 フ、且ツ啗ヒ、且ツ對ス、太祖、其某ノ業
 フ善トス、齊賢、固ク称ス、餘ノ業モ皆
 善シト、太祖、怒テ斥ク便チ出タス、既
 ニ還テ晋王ニ語テ曰ク、吾西都ニ幸
 ノ、一ノ張齊賢ヲ得タリ、吾之ヲ用ヒ
 ス、他日汝ニ與テ宰相ト作サント、盖
 シ傳位ノ定ル久シ、太祖不豫ナリ、后

子德芳太祖ノ次

〔截〕擊要ノ注ニ
 刺ナリ
 〔官家〕漢ニ縣官
 ト称シ、魏晋ニ
 官ト称スルカ
 コトキナリ、皆
 天子ヲ指ノ敢
 テ正ク言ハス
 尊ヲ尊トスル
 ノ意、湘山野錄
 ニ、五帝ハ天下
 フ官ニス、三王
 ハ天下ヲ家ニ
 ス、故ニ官家ト
 曰フ

宋王繼恩官ヲシテ皇子德芳ヲ召ハ
 シ、繼恩徑チニ晋王ヲ召ス、王、官中
 ニ至ル、左右ヲ散遣ノ言フ所口皆ナ
 聞ヲ得ヘカラサシム、但遙ニ燭影
 ノ下ヲ見レニ、王ノ席ヲ離ルノ状ア
 リ、既ニノ上、柱斧ヲ引テ地ヲ戳シ、大
 色ニノ曰ク、好ク之ヲ為セヨト、遂ニ
 崩ス、后、晋王ヲ見テ、愕然トシ、曰ク、吾
 カ母子ノ命皆官家ニ托スト、王ノ曰
 久、共ニ富貴ヲ保ツ憂ナキナリト、王
 位ニ即ク久名ヲ賜ト更ム、廷羨、開封ニ

驚久上ノ在所ヲ知ラス、德昭ヲ立
 テント謀ル者アリ、上、聞テ悦ヒス、歸
 ルニ及テ北征ノ不利ヲ以テ北漢ヲ
 平クルノ賞ヲ行ハス、德昭之ヲ言ス、
 上、大ニ怒テ曰ク、汝カ自ラ之ヲ為シ
 フ待テ賞スル未タ晚カラサルナリ
 ト、德昭退テ自刎ス、後元二年、岐王德
 芳卒ス、太祖ノ二子相繼テ死セシヨ
 リ、秦王廷美自ラ安セス、他日、上、嘗テ
 傳國ノ意ヲ以テ、趙普ニ問フ、普カ曰
 ク、太祖、已テニ誤ル、陛下豈ニ再ヒ誤

涪陵縣公ニ
 廷美ノ罪ヲ
 得ルハ、趙普
 之ヲ為セリ

符ヲ敗ス通鑑
 言ノ洩シテ恐
 事ニ坐シ、尊
 ノ司馬ニ敗ス

容ンヤト、是ニ於テ普亦入テ相タリ、
 廷美、遂ニ罪ヲ得テ、開封ノ尹ヲ罷テ、
 徙テ西京ノ留守ト為シ、涪陵縣公ニ
 降ス、涪陵縣屬涪州、復知開封府、李符ヲ
 メ、其ノ怨望ヲ告ケシム、南ノ方房州
 ニ遷シ、駁テ之ヲ殺ス、普、李符カ言ヲ
 漏サシテ、恐レ、弥、德昭カ曹彬ヲ譖ス、
 ル故ニ曰ク、天符、德昭ヲ薦ルヲ以テ符
 ヲ、春州ニ貶ス、卒ス、春州、今、廣東南恩州、
 種放、終南山ニ隱シ、終南山、山、武草ヲ
 結テ、廬ト為ス、講習ヲ以テ務ト為ス、

陳搏華山隱居圖



後進多ク之ニ從テ學フ上、聞テ之ヲ
 召ス、辞スルニ母ノ老タルヲ以テス、
 上、其節ヲ高シトノ厚ク錢帛ヲ賜テ
 之ヲ推ス○呂蒙正、參政タリ、朝士ア
 リ、之ヲ指シテ曰ク、此ノ子モ亦夕參政
 ヤト、蒙正、佯々テ聞カス同列其姓名ヲ
 詰シ、ト欲ス、蒙正、之ヲ止テ曰ク、若シ
 一ト夕ヒ名姓ヲ知ラハ、則チ終身忘ス、
 知ルナキニ如カサルナリト○華山
 ノ陳搏ヲ召ス、号ヲ希夷先生ト賜フ
 陳搏、字ハ圖南、亳州真源ノ人、華山ニ
 隱ル、道ヲ修ム、周世宗、召シ見ル、飛山昇

蒙正之ヲ止テ
 曰ク云々史蒙
 正ノ雅量ヲ言
 フナリ

血ヲ聚スル民
 財ヲ聚スル民
 ノ膏血ヲ以テ
 塗譽スル如シテ

黃白ノ術ヲ問テ曰ク、陛下、天下ヲ治ルヲ以テ、天子
 ト為ルヘシ、安シク入リ、山ニ還ス、中途ニ太白驢
 ト乘リ、沛ニ入リ、大ト欲ス、還ス、途ニ太白驢
 ノ登極ヲ聞ク、大笑シ、驅トヨリ、隆ツ、日
 ク、天下、此ヲ遣シ、玄ヲ修ト、道ノ時ヲ問
 フ、搏曰ク、仙人搏、華山ノ野ノ事、吐納養
 ナシ、亦神仙術ノ傳フ可キ、ア養ルニ非
 フ、知ラハ、假令白君、臣心ヲ協セ、徳ヲ同
 ス、益ヤ興シ、治ヲ致ス、秋ノ勤行修煉
 シ、化ヲ興シ、治ヲ致ス、秋ノ勤行修煉
 此ニ出ル卒シト、○開寶寺ノ塔成ル
 華山ニ還ル卒シト、○開寶寺ノ塔成ル
 爾寶寺ノ塔成ル
 京ニ寶寺アリ、前後八年、費ス所、億萬
 錫、奏ノ曰ク、衆ハ以為ラク、金碧煒煌
 ト、臣ハ以為ラク、膏ヲ塗リ、血ヲ譽ル

龍圖

十八史畧讀解卷ノ

下宋太宗

三五九

ト、上、怒ラス。○是ヨリ先キ、西夏ノ李光叡卒ス、子繼筠嗣ク、又卒ス、弟繼捧嗣久、繼捧來朝ス、四州ノ地ヲ獻ス。〔四州、夏、銀、其族弟繼廷之ヲ聞テ叛ソ去ル、繼、宥、其族弟繼廷之ヲ聞テ叛ソ去ル、數邊ニ入寇ス。〕契丹ノ主明記殂ス、景帝ト号ス、子隆緒立ツ、年十二、母ノ蕭氏、其國政ヲ專ラニス、國号ヲ復ソ、契丹ト曰フ。○上、曹彬等ニ命ノ道ヲ分ケテ、契丹ヲ伐タシム、彬カ兵、大ニ岐溝関ニ敗ル。〔岐溝関、涿州ノ西、詔ノ師ヲ班ス、契丹、是ヨリ連年入寇ス、後

女真、契丹其朝貢ノ路ヲ隔ルヲ以テ之ヲ撃ント請ハ、許サス、女真、遂ニ契丹ニ臣タリ。○上、李繼捧ニ姓名ヲ趙保忠ト賜フ、節度使ヲ授テ命ノ夏、銀、宥、州、靜ノ五州ヲ管ス。〔五州、綏州、陝西ニ屬ス、餘ノ四州、繼廷ヲ圍ラシム、州ハ、甘肅ニ屬ス。〕繼廷ヲ圍ラシム、繼廷降ス、姓名ヲ趙保吉ト賜フ、保吉、復邊ニ寇ス、李繼隆ニ命メ之ヲ討セシム、保忠言ク、已テニ保吉ト仇ヲ解ク、乞フ兵ヲ罷ント、上、怒テ繼隆ニ命メ先ツ兵ヲ移メ之ヲ討セシム、繼隆

賊外ノ科租賦ノ外、別ニ科租也

夏州ニ入り、保忠ヲ闕下ニ搢送ス、保吉、尋テ亦降ヲ請ス而シテ復繼降ニ命メ之ヲ討ス。蜀既ニ平シヨリノ後、府庫ノ物悉ク載テ内府ニ歸ス、土狹ク民稠ケシ、有司賦外ノ科ナカラス、王小波起テ盜ヲ為ス、小波死ス、李順弟波妻之ニ繼久、成都ヲ陷キ、蜀王ト僭号ス、上、王繼恩ニ命メ討メ之ヲ擒ニス、蜀平ク。○交趾丁連卒ス、大校黎桓天授大將校其宗族ヲ囚テ其國ヲ專ラニス、上、初命ノ之ヲ討ス、功ナシ。

霖潦久雨ヲ霖ト曰フ、源ナキ水ヲ、潦ト曰フ

大慙慙ハ、惡ナリ、書ニ元惡大慙

已テニソ桓、奉貢ス、竟ニ桓ヲ以テ交趾郡王ト為ス。○時ニ霖潦、度ニ過ク、上ノ曰ク、朕、刑獄ニ於ケル心ヲ盡ス、安ソ積陰ノ譴ヲ得タルト、寇準、班ヲ越テ對テ言ク、某ノ州ノ尉吏、官錢ヲ侵ス、一若干法ニ於テ、小過ト為ス、陛下カ之ヲ殺ス、王準ハ、參政王沔ノ弟ナリ、錢數百萬ヲ盜ム、法ニ於テ、大慙ト為ス、陛下、沔カ故ヲ以テ務テ相ヒ容蔽ス、此ノ如クニソ刑獄ニ心ヲ盡スト曰フ、之ヲ如何ソ、積陰ノ譴ナカラ

〔太平興國〕四字
 再祖ノ罷テ普
 太祖ノ乾德ニ
 相タリ、開宝六
 年ニ至テ、罷テ
 興國六年ニ、後
 入テ相タリ、八
 年ニ至テ、又罷
 年ニ入ル、淳化九
 年前後ニ朝ニ登
 事ス、凡テ二十
 餘年

ノト、上、即、日、ニ、准、ヲ、誅、ノ、汚、ヲ、罷、ハ、俄
 ニ、ノ、雨、止、〇、上、崩、ス、在、位、二、十、二、年、改
 元、ス、ル、者、五、ツ、曰、ク、太、平、興、國、曰、ク、雍
 熙、端、拱、淳、化、至、道、壽、五、十、九、薨、居、正、沈
 淪、趙、普、宋、琪、李、昉、呂、蒙、正、張、齊、賢、呂、端
 等、相、繼、テ、相、ト、為、ル、普、ハ、凡、テ、再、ト、入
 テ、再、ト、罷、ラ、ル、尋、テ、薨、ス、普、初、ノ、吏、道
 ヲ、以、テ、聞、ス、學、術、寡、シ、太、祖、嘗、テ、勸、ム
 ル、ニ、讀、書、ヲ、以、テ、ス、普、遂、ニ、手、ニ、卷、ヲ
 釋、カ、ス、朝、ニ、大、議、ア、ル、コ、ト、ニ、輒、チ、戸
 ヲ、闔、テ、自、ラ、一、篋、ヲ、啓、キ、一、書、ヲ、取、テ

之ヲ閱ス、卒スルニ及テ、家人、其篋ヲ
 視レハ、則チ論語ナリ、嘗テ上ニ謂テ
 曰ク、臣論語一部アリ、半部ヲ以テ太
 祖ヲ佐ケ、天下ヲ定メ、半部ヲ以テ陛
 下ヲ佐ケ、太平ヲ致スト、蒙正、晚ニ出
 ツ、嘗テ普ト並ニ相夕リ、普、甚夕之ヲ
 推ス、蒙正、嘗テ冊子ヲ夾袋ノ中ニ置
 テ、四方入才ノ姓名ヲ疏ス、以テ選用
 ヲ待ツ、初メ太祖、嘗テ張齊賢ヲ以テ
 上ニ屬ス、齊賢、進士ニ舉ラル、ニ至
 テ、上、之ヲ上第ニ置ント欲ス、而ニ有

一榜ニ部ノ齊賢
 言ハ上、齊賢
 下第ニ在ルヲ
 以テ、故ニ一榜
 ノ進士ニ詔ノ、
 盡ク及第ヲ賜、
 特ニ京官通判
 判ヲ与フナリ、
 齊賢、遂ニ大理
 評事ヲ以テ、衡
 州ニ通判タリ
 糊塗俗語ニ、介
 明ナラサルナ
 リ、太子太宗ノ
 第三子

司其名ヲ第シテ下ニ在リ、上、悦ヒス、
 乃チ一榜ニ詔メ、特ニ京官通判ヲ与
 之、卒ニ大ニ用ラル、ニ至ル、呂端、相
 ト為ル、人々謂ス、呂相、事ヲ作ス、糊塗
 スト、上、之ヲ知テ曰ク、端、小事ハ糊塗
 ス、大事ハ糊塗セスト、上ノ位ニ即テ
 ヨリ以来、小人ヲ以テ相ト為ル者ハ、
 盧多遜、一人ノミ、太子立ツ、是ヲ真宗
 皇帝トナス

冲冠嶺著十八史略譯解卷之八下終

